

東京都砂町水再生センター 雨水放流渠工事

現場見学会を開催

技士会は、平成24年6月15日（金）、東京都江東区新砂にある東京都砂町水再生センター雨水放流渠工事の現場と同センターの下水処理施設の現場見学会を開催し、34名が参加した。

砂町水再生センターは昭和5年に稼動を始め、13ある東京都の水再生センターのなかでも2番目に古い水再生センターである。墨田区の全部、江東区の大部分、中央・港・品川・足立・江戸川区の一部で構成される広大な区域（6,153ha）から発生する約80万人分の下水を、有明水再生センターとともに処理している。

また、雨天時に流れ込んでくる雨水を貯留する施設も併設し、洪水災害発生を防止する役割も担っている。

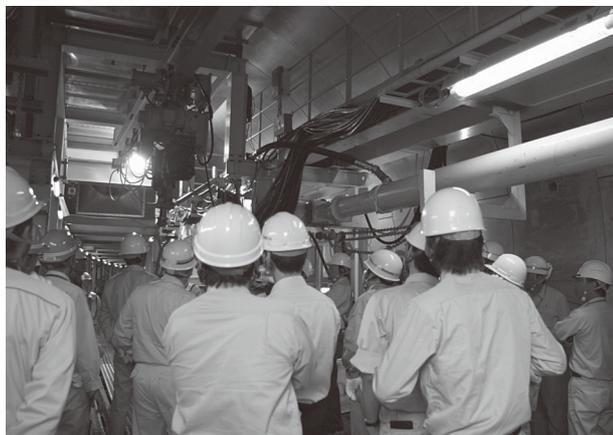
今回見学した東京都砂町水再生センター雨水放流渠工事は、砂町水再生センターの雨水貯留施設の砂系ポンプ棟から放流する雨水の放流先が、現状では私有地水面となっているため、公有水面である新砂水門外しんすなすいもんの砂町運河へ放流先を変更する工事である。工期は、平成23年2月3日から平成25年3月11日までの約2年の予定で、約1.5kmを

泥水式シールド工法で施工する（1頁「現場ルポ」記事、参照）。

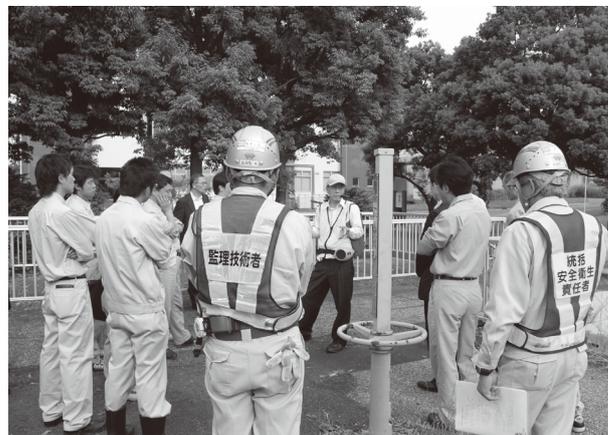
当日は、事務所にて工事概要の説明を受けた後、東部スラッジプラントそばのシールド発進口のある立坑を階段で一気に降り、トンネル内部のシールド掘削現場を見学した。また、この現場では環境への取組みも重視しており、設置されているLED照明や太陽光パネルなどの説明も受けた。

続いて、見学会後半では、センターの下水処理施設を見学。ここでは、経済的かつ大規模な処理に適している、汚れの沈殿や微生物による分解等の方法を用い、10時間程度をかけて45万tの汚水の処理が行われている。まず、センター職員の方より施設の説明を受け、その後沈殿池や反応層など下水を処理する過程を見学した。

今回の現場見学会では、2か所の見学を通して、工事の現場で軟弱地盤の掘削や地盤の改良、泥水式シールドマシンなどの技術について、また、東京都砂町水再生センターでは、工事に関係する雨水についての質問があるなど、参加者が技術面と運用面に強い関心を寄せていたことが伺えた。



トンネル内部の見学の様子



下水処理施設の説明を受ける様子